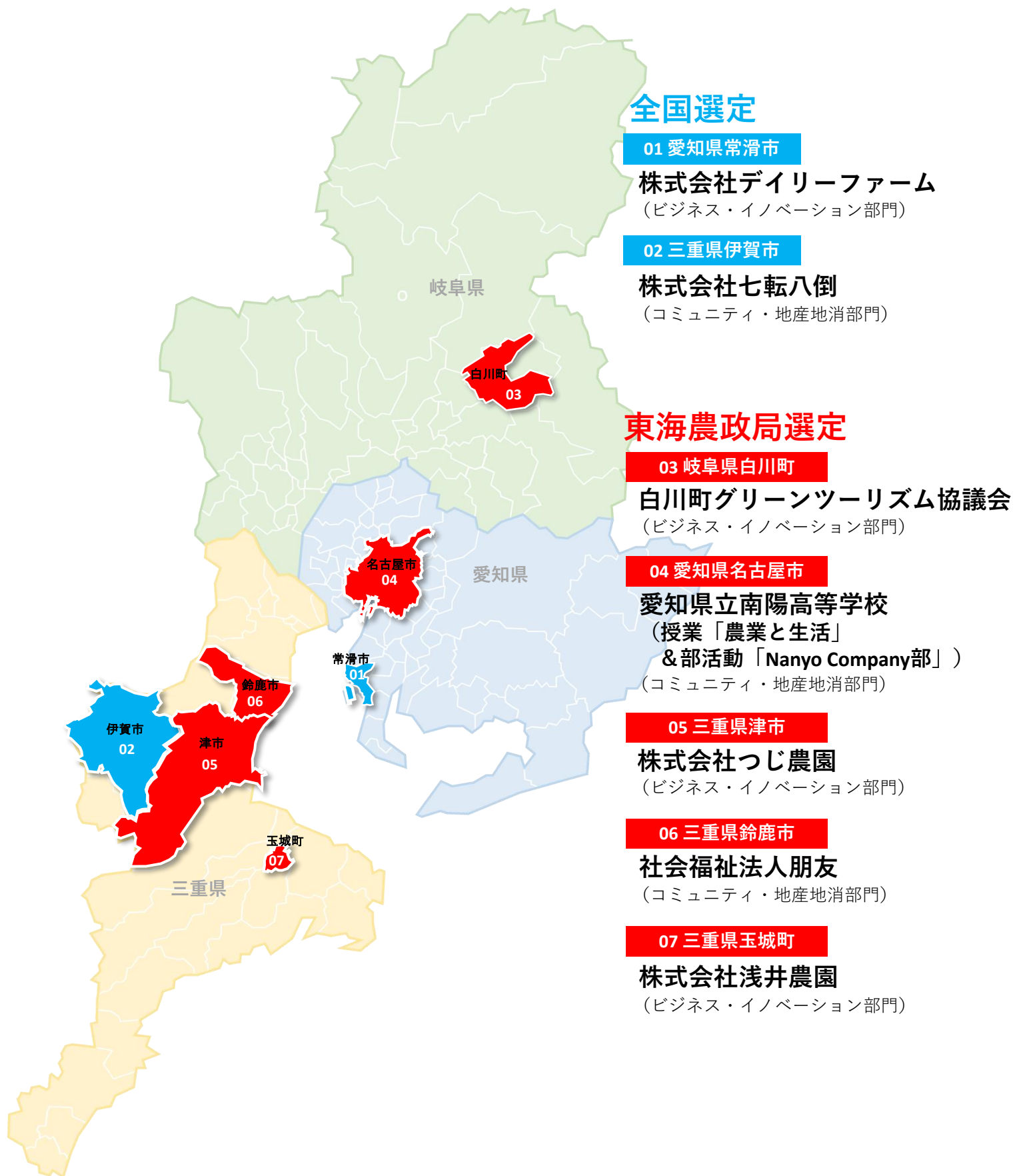


東海農政局管内の選定地区の概要

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第10回選定）位置図



1

株式会社デイリーファーム (愛知県常滑市)

優秀賞

ーたまご農家がお届け！たまごのテーマパークー



6次化施設「ココテラス」(上)と農家レストラン「レシピラ」(下)



地元中学生とオリジナル商品を開発



直売施設にて地元のお店や農家とマルシェを開催

6次産業化

地産地消

関係人口の創出



概要

- 遺伝子組み換えのない飼料原料や地元産米をエサとして使った付加価値の高い卵を生産。6次産業化施設（洋菓子店・レストラン・ベーカリー）で卵と地元食材を活用した商品を販売。
- 地元農家を巻き込んだマルシェ、常滑観光協会・名鉄観光とコラボした体験ツアーの実施など地域の魅力を発信する取組や中学生と連携した新商品開発等を実施。

成果

- 6次産業化施設の売上は、約1.5億円（平成30年度）から約2.9億円（令和4年度）に増加。来客数は、約13万人（平成30年度）から約17万人（令和4年度）に増加し、常滑市の観光客誘致に貢献。
- 6次産業化施設の開設前（平成26年）と令和4年を比較すると、卵の付加価値額は41.7円/kgから83.7円/kgに増大。スタッフ数は41人から120人に増加し、地域の雇用を創出。

2

株式会社七転八倒 (三重県伊賀市)

特別賞

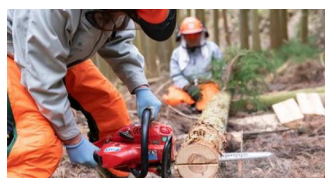
ー 田舎からINAKAへ。ー



都会と田舎の交流を生む四季折々のイベント



雇用とコミュニティの核となる古民家カフェ



山を守る地元講師による週末田舎人の育成

農泊

農村文化体験

地産地消



概要

- 発信・行動力を持つ学生と共に諸問題の解決策を考え、田舎の課題を事業化・価値化し有効活用する目的で活動を開始。子育て世代や高齢者も働き続けられる職場を目指し、空き家を活用した古民家カフェを中心に活動。
- 伊賀焼の製陶会社と連携した古民家カフェでの自家栽培の米・野菜の提供や直売、放置山林整備等に必要な講習の開催など、地域資源を活用した幅広い取組を実施。

成果

- 古民家カフェは約540万円（令和4年度）の売上。市内観光施設や伊賀焼産地への訪問者数も増加するなど関係人口創出に寄与。
- 宿泊者数は74人（平成30年度）から174人（令和4年度）に増加。講習受講者数は、12人（令和2年度）から90人（令和4年度）に増加。

3

白川町グリーンツーリズム協議会 (岐阜県白川町)

ーReborn里山 農と人をつなぐツーリズムー



白川町の美しい自然を満喫するアクティビティ



町特産の白川茶の
歴史・魅力を味わう体験



ニーズを活かしたワーク環境を整備

概要

- 有機農業を主体テーマとして、農業体験、有機農業野菜での食事提供、農家民泊を一体的に提供。ワーケーションの受け入れも実施。
- 「体験」「食」「宿」「白川茶」をキーワードに、町内の店舗や人、施設をまとめたポータルサイトやガイドブック「イトシキ」を作成しPR。

成果

- 農泊の宿泊者数は、31人（令和2年度）から578人（令和4年度）に増加。体験利用者数は18人（令和2年度）から2,561人（令和4年度）に増加。
- ワーケーション利用者に地域課題に触れる地場産業体験メニューを提供することで、利用者が都市部と地方をつなぐキーマンとなり、関係人口創出に寄与。



4

愛知県立南陽高等学校
(授業「農業と生活」&部活動「Nanyo Company部」) (愛知県名古屋市)

ー目指せ！プラフリー＆フードロスゼロー



硫黄コーティング肥料を使用した米作り



藤前干潟クリーン大作戦



規格外野菜の有効活用の検討

概要

- 「農業と生活」の授業では、環境負荷が低い持続可能な米作りを行い、授業で収穫した米は、精白米、米粉商品として大型販売店で販売。
- 部活動「Nanyo Company部」では、地元農家や企業と連携し、廃棄される流通規格外野菜で商品開発を行い、企画、生産から流通、販売まで一連の活動を実施。

成果

- 「農業と生活」の授業における米の収穫量は700kg（令和2年）から1,100kg（令和4年）に増加。部活動における商品開発では、規格外野菜45kgを有効活用。
- 売上の一部は長野県木曽町J-クレジットの購入にあて、木曽川水系の源流保全に貢献。



ー地域で取り組むドローンシェアリングー

ドローンを活用した散布作業と
地域生産者への作業説明オフシーズンの
トラブル事例共有勉強会

リモートセンシングドローン

スマート農林水産業

地域のスマート化

関係人口の創出



概要

- 中小規模農家へのドローン導入における課題（コスト、作業の専門性等）解決のため、複数の中小規模農家でドローンとオペレーターを導入・シェアするシステムを構築し運用。
- 複数の企業と共同で当シェアリング手法をパッケージ化し、大規模化、農地集積が難しい中山間地域でのシェアリング手法導入・運営により農作業の省力化・効率化を図ることを検討中。

成果

- ドローンシェアリングシステムに参画する生産者は10件、ドローンの作付面積は約120ha（令和4年）に増加。
- 利用者からは農作業軽減・コスト削減、依頼の手軽さに関する評価が高く、県の分析で平均収量の向上も確認されており、令和5年からは他地域での展開も開始。

ー好きな仕事で、楽しく元気に働こうー



障がい者の農場「わか菜の杜」での水耕栽培



Cotti菜での弁当や野菜の販売

Cotti菜の
三重県内ノウフク商品販売コーナー

農福連携

地産地消

6次産業化



概要

- 露地栽培と水耕栽培の農場を開設し、障がい者を雇用。更なる活躍の場を提供するため生産された野菜をふんだんに使用したメニューを提供するカフェ（Cotti菜）を開設。障がい者自身が野菜栽培、弁当調理・販売の中から仕事の選択が可能。
- 高齢者宅等への宅配を目的に、弁当の製造、販売を開始。さらに障がい者の希望でパンの製造を開始。

成果

- 農業部門の売上は1,951万円（平成30年）から2,188万円（令和4年）に増加。飲食部門の売上は2,149万円から3,486万円に増加。
- 24名（令和4年）の障がい者が農福連携事業に就労しており、平均工賃は53,007円を達成。

－遊休農地を活用したキウイフルーツ新産地！－



玉城町とのキウイフルーツ産地化連携協定



キウイフルーツの収穫



7.3haを集積し、園地を造成

農業

雇用

企業との連携



概要

- 農地中間管理機構を通じて52名の地権者から遊休農地など7.3haの畑を集積してキウイフルーツ果樹園を開園。
- キウイ販売世界最大手のゼスプリ社と提携し、大規模・高品質・高収量のビジネスモデル構築を追求。玉城町とキウイフルーツ産地化連携協定を締結し、三重県玉城町産のゼスプリブランドとして販売。
- 地元養牛場からの2,000t以上の牛糞堆肥や鳥羽の牡蠣の貝殻を活用して土壌改良を実施。

成果

- 地域雇用者数は7人（令和元年）から15人（令和4年）に増加。新たに7.7haの畑を集積し、第二園地の開発を行っており、令和5年には地域雇用者数が30人程度となる見込み。